



だんだん日没は早くなり、この時間には既に真っ暗。でも意気は軒昂。この日の参加者は62人

さようなら原発
越谷
連絡会

発行 さようなら原発越谷連絡会 編集委員会
連絡先 〒343-0023
越谷市東越谷1-5-17
TEL&FAX 048-962-8052

●福島を忘れない

福島を忘れない。そのためには、私たち自身
が、福島の実情と向き合い、福島が抱えて
いる諸問題について、しっかりと認識し、共有す
ることが大切だと思う。それは、「汚染水」「県民
健康管理調査」「原発事故子ども・被災者支援法」
「避難している人々の問題」「原発告訴団」等、依
然として厳しい状況下にあることを見なければな
らない。

今回は「原発事故子ども・被災者支援法」につ
いて、一緒に考えて行きたい。この法律は、被災
者支援のあり方を定めた理念法で、昨年6月、超
党派の議員立法として提案され、全会一致で可決
成立した。この法律の特徴は、放射性物質は自治
体の境界を超えて拡散する。健康への影響の評価が
定まらない現状では、被災者一人一人の意思を尊
重した支援が求められる。このため、支援法は国
の避難指示基準(20ミリシーベルト超)には達して
いないものの、放射線量が一定基準以上の地域を
「支援対象地域」とし、国が医療面で被災者を支
援すると規定した。支援対象地域での①居住②避
難③避難からの帰還のいずれについても、個人の
選択を尊重する、という点に大きな特徴がある。

ところが、法案成立から一年以上も放置され、
やっと8月30日に復興庁が公表した基本方針案は、
本末転倒そのものであった。
放射線量の一定基準を定めまいまま、福島県内
33市町村を支援対象地域としたからだ。復興相は
線量による画一的な線引きは「地域を分断する」
というが、「地域」ではなく、「被災者」を支援す
るといふ、法の理念とかけ離れている。同時に、
120の施策も発表されたが、これらも骨抜き
の意図が明確だ。8割程度は各省庁が実施する既存
施策で、県外避難者向けとみられる新施策は2
3だけ。昨年12月に新規受け付けが打ち切れ、
復活を求める声が強かった県外避難者ための家賃
補助も、「避難者の帰還が進んでいる」との理由
で盛り込まれなかった。支援法に謳われた、「個
人の選択の尊重」を無視して、福島への帰還促進
を打ち出しただけとなっている。
越谷市議会では9月議会で支援法の基本計画早
期制定などを求める国への意見書が提案された。
民主党・市民ネットワークが提案し、新政クラブ、
公明党越谷市議団、保守無所属の会が賛成者と
なっている。本稿を執筆している今日現在では可
否は決まっていないが、地方議会からも良識ある
声があることを切に望む。
(高橋正久)



9・10月の主なアクション&イベント

「東電株主代表訴訟」第8回口頭弁論

●日時 9月26日 午前10時30分～ 東京地裁103号(地下鉄「霞ヶ関駅」「桜田門駅」)
 ●報告会&学習会 会場：ハコ一貸会議室虎ノ門(地裁より、徒歩10分)
 12時半～14時半=裁判報告(代理人弁護士)／東電の今までの主張の問題点(原告・山崎久隆) *当日は抽選になるかも知れません。950頃までに裁判所前に(9時半頃より、地裁前にて原告がアピール)。

0929☆反原発渋谷大行進 福島を忘れるな 再稼働を許すな

●日時：2013年9月29日(日)
 ●会場：代々木公園、けやき並木(渋谷側) 集合※雨天決行／●デモコース(予定) 集合：14:00 デモ出発：15:00／
 ●主催：首都圏反原発連合

10.13 No Nukes Day 原発ゼロ☆統一行動

●日時：2013年10月13日(日) 13:00から集会 14:00からデモ／デモ終了後、以下の行動に合流。17:00～19:00 国会前大集会(主催：首都圏反原発連合)
 ●会場：日比谷公会堂
 ●主催：首都圏反原発連合 ●共催：さようなら原発1000万人アクション／原発をなくす全国連絡会 ●協力：脱原発世界会議／経産省前テントひろば／再稼働阻止全国ネットワーク

田中正造 未来への大行進 田中正造没後100年記念事業

●集合：10月13日(日) 春日岡山惣宗寺(佐野厄除け大師) 佐野市金井上町2233/佐野駅から徒歩12分
 ●行進：佐野市街中心部
 ●当日スケジュール：10:00～開会式／10:30～大行進スタート／12:00～佐野駅前着(出演/せきぐちゆき・田中正造八木節・よさこい踊り)／13:00～閉会式(感謝状贈呈・仮装大発表/テーマソング「渡良瀬の夢」大合唱)
 ●参加方法：参加自由／仮装大歓迎(田中正造・カツなどゆかりの人物、農民、車夫など)／旗。プラカードなど大歓迎
 ●主催：田中正造没後100年記念事業を進める会



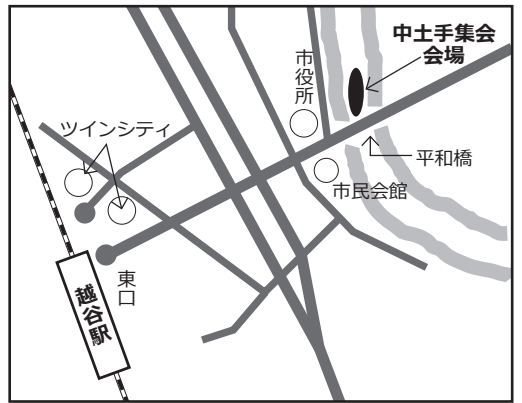
被爆地の跡
まとも、その実態を克明に記している。(服部)

大垣市内の「被爆地跡」碑
 岐阜県大垣市、大垣城の北約200m、水門川左岸に写真の碑がひっそりと立っている。高さ1mほどのささやかな碑だが、褐色の石に刻まれた「被爆」の文字に、ドキッとする。辞書をひけば「爆撃を受けること」「原水爆による攻撃を受けること。また、その放射能の害をこうむること」とある。この言葉は後者を指すのが一般的だろう。実は、この碑は1945年の7月24日の深夜に落とされた原爆の模擬爆弾投下による犠牲者を悼む碑なのだ。死者20名、負傷者100名と裏面に刻まれている。
 通称「パンブキン爆弾」。8月9日、米軍B29が長崎に投下したブルトニウム原爆、フアットマンと同じ重さ、約45トンで、同一形状で作られたもの。原爆投下訓練のため、新潟、大阪など全国30都市に49発の爆弾が投下されている。模擬爆弾といってもブルトニウムやウランなどの核物質が充填されていないだけで、通常の1トン爆弾の約26倍のTNT火薬を充填したものだから、その破壊力は大きい。7月21日から米軍は数度の爆撃でこの爆弾を投下、死者400人、負傷者1200人以上。そうして、あの8月6日、9日となる(春日井市には何と8月14日に)。
 この一連の爆撃は、原爆投下の訓練、シミュレーションとデータ収集のために行われたもので、その実態は長い間知られてはいなかったが、1991年、春日井の戦争を記録する会、金子力氏の綿密な調査で明らかになったものだ。
 模擬とはいえ、この爆弾は「原爆」として投下され、B29乗員と司令官たちは綿密に「実地」の原爆投下のシミュレーションをくり返していたわけだ。軽々には用いることのない「被爆」の文字が刻まれている訳もここにある。
 その後も金子氏は米国国立公文書館などで資料を発掘、『原爆投下部隊第509混成群団と原爆・パンブキン』(共著)を



中土手集会・パレード(越谷3金行動)って何だ？

●さようなら原発越谷連絡会は、再稼働反対国会前抗議行動(毎金曜日)と、第3金曜日には、越谷独自の集会とパレードを行っています。
 ●第3を除く金曜日は新越谷駅上りホーム後方(越谷駅寄り)に、16時半集合・出発しています。
 ●独自に国会前に向かわれた場合は、国会正門から見て左側歩道の国会に近い場所を定位置にしています。
 ●第3金曜日の、越谷独自行動(3金脱原発越谷行動)は、市役所東側の中土手に18時集合・開始で、どなたでも発言自由のアピールタイム。歌や楽器でのアピールもOKです。このうち、越谷駅までパレードをしています。誰でもどなたでも参加していただける集会・パレードです。ぜひ、ご参加ください。
 ●お問い合わせは、080-1229-3661 飛田 / 080-5670-7177 増田 / 090-4010-1334 伊三井



プラカードや楽器の持参大歓迎。どなたでも参加できます。越谷市役所東側、平和橋の下「中土手公園」午後6時集合。途中参加でも大丈夫です。仕事帰りに合流も大歓迎！